

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ国、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島）

（2019年1月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- EUの非協力的司法組織を持つ国のブラックリストに対し、関係国は懸念を示しつつも、同リストから除外されるよう国内法の改正等の努力を行っている。
- ベネズエラ情勢への対応を巡っては、内政不干渉の原則を重視し、マドゥローロ大統領を支持する国と同大統領に批判的な国で対応の違いが見られる。
- 小野寺衆議院議員がアンティグア、セントルシア及びセントビンセントを訪問した。

2. 内政

- 7日付グレナダ紙は、同国はEUやOECDの基準を遵守するため国際企業法、国際保険法等の廃止を含め多くの金融関連法を廃止または修正し、EUの非協力的司法組織を持つ国のブラックリストからの除外を目指すと報道。
- 8日付グレナダ紙は、昨年辞任したジョセフ前司法長官の後任としてラムダーニ新司法長官が就任したと報道。
- 10日付セントキッツ紙は、投資による市民権プログラムにつき不正申請や違法な種類変更等の制度悪用により、3千万から1億3千万東カリブドルの政府歳入の減少及び経済効果の損失が生じている可能性があるとの報道。
- 15日付セントキッツ紙は、アスタファン元国家安全保障大臣は投資による市民権プログラムは今まで30億東カリブドルの歳入をもたらしたが、14年の2億3,500万東カリブドルを頂点として、この3年は減少していると述べたと報道。
- 16日付セントキッツ紙は、ハリス首相は昨年12月に導入した貧困削減計画に関し、これまで2,687世帯に給付金各500東カリブドルが支給され、総額134万東カリブドルとなったと発表したと報道。
- 30日付セントルシア紙は、野党が提出したシャスネ首相への不信任案は同日否決されたと報道。

3. 経済

- 4日付セントキッツ紙は、ハリス首相は、新年祝賀挨拶の中で前政権が残し

たIMFへの債務1億1,700万米ドルを完済したと述べたと報道。

●4日セントビンセント紙は、政府はEUとの間で道路管理及び地方道路整備のため1,835万東カリブドルの借款契約に署名した、気候変動への道路網の強靱性を高める目的と報道。

●7日付アンティグア紙は、ブラウン首相はスコシア銀行がアンティグア支部を売却する計画に対し、同行を強制買収することも辞さないと述べたと報道。

●8日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相はインド政府が農業生産企業アロール社の新工場建設に100万米ドルを提供すると述べたと報道。

●14日付ドミニカ紙は、JICA専門家チームがドミニカ国を訪問し、災害予防能力強化のための洪水及び土砂災害管理プロジェクトの実施につき協議した、ジョンソン公共事業省主任技監はJICAの協力に感謝したと報道。

●14日付グレナダ紙は、ブラウン首相は、空港等の施設に中国からの借款を受けているが、他の友好国とも緊密な関係を有している、中国が資源やインフラを制御しようとしている根拠はないと述べたと報道。

●14日付セントビンセント紙は、台湾の医療チームが同国に対し、10万東カリブドル相当の5台の血液関連医療機材を寄贈したと報道。

●16日付グレナダ紙は、15日、中国が8つの学校にコンピューター70台(21万東カリブドル相当)を寄贈したと報道。

●17日、ブラウン・アンティグア首相は、19年度予算案を議会に提出したが、歳入9億6620万東カリブドル、歳出10億4449万東カリブドルの赤字予算となった。同首相は、住宅開発について中国からの9千万東カリブドルの無償を得て、250戸の建設を予定していると述べた。

●22日、JICAセントルシア事務所は、青年海外協力隊の2名が到着し、1ヶ月のセントルシア滞在後にセントビンセントに2年間派遣されると発表。

●25日付ドミニカ国紙は、カリブ開発銀行、EU及び英国はドミニカ国内の15カ所の建物のエネルギー効率を向上させるプロジェクトに12万7千米ドルの支援を行うことを決めたと報道。

●27日付セントビンセント紙は、台湾は同国に対し240万米ドルの知的バス管理監視システム(監視カメラの設置を含む)を供与する合意に署名したと報道。

●28日セントキッツ紙は、25日、台湾とセントキッツが共同で設立したエコパークは8年間の操業を経て、セントキッツ側に正式に譲渡されたと報道。

●30日付セントビンセント紙は、同国議会で10億6,700万東カリブドルの19年度予算歳出入見積りが承認された、歳出の中には台湾に同国大使館を開設する費用が含まれていると報道。

4. 外交

- 9日、ハリス・セントキッツ首相は、マドゥーロ・ベネズエラ大統領の就任式に出席し、同大統領と会談し、2国間協力につき協議した。
- 10日、米州機構（OAS）のベネズエラ情勢に関する緊急常設理事会で、マドゥーロ大統領の正当性を認めないとの決議案に対し、セントルシアは賛成、ドミニカ国、セントビンセント等は反対とカリブ諸国内で対応が分かれた。
- 18日、ブラントリー・セントキッツ外務大臣は、台湾との間で新たな5年間の協力協定に署名し、台湾との良好な関係を強調した。
- 20～24日、小野寺衆議院議員（元防衛大臣）はアンティグア、セントルシア及びセントビンセントを訪問し、各国の外務大臣、漁業大臣等と会談した。
- 24日付アンティグア紙は、ブラウン首相がダボス会議に出席し、その機会にシクルナ・マルタ財務大臣と会談し、市民権投資プログラムを有する諸国に悪影響を与えるEUの措置につき協議したと報道。
- 25日、セントビンセント外務省は、グアイド・ベネズエラ国会議長の挑発的な行動に困惑を示し、一部の諸国が同議長を暫定大統領と承認することは内政不干渉の原則に反するとの声明を発出した。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。